

権禰宜 馬場慶太郎

心こころの疲労疲労は本人本人に限らず身近な人人よそ様さまにも害害をもたらします。日本人には古来より、自然を重んじ、神かみに祈りを捧げ、他人に感謝する美しい心が備わっています。神社は今も昔も変わらずそこにごさっています。時代が如何に変われど大神様は変わらず私たちをお守りくださっています。心の余裕がないと感じたら、お山に足をお運びいただき、自然に触れながら神に手を合わせてみてください。お身体は少々疲れるかもしれませんが、少しでも心の疲れを癒す一助となりますれば幸いです。

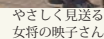
太々神楽の里帰り

この石濱神社と御嶽との関係は、安永六年（一七七七）御嶽の神主（現宮司）に迎えられた、江戸橋場神明（現石濱神社）神主鈴木兵部の子息である郡胤の頃まで遡ります。そして鈴木郡胤の時に、橋場神明からほど近い眞先稻荷



石濱神社は浅草北方の隅田川沿いに鎮座し、関東大震災（一九二三）や第二次大戦では大きな被害を受け、残念ながら昔の面影は残されてませんが、寛延二年（一七四九）と安永八年（一七七九）に建立された石鳥居が奇跡的に助かり、現在参道に移設されています。震災や戦禍の中、この年代の鳥居が保存されていた事に、御嶽との縁をより強く感じます。太々神楽が取り持つ縁で、約二五〇年ぶりに里帰りして、石濱神社境内で太々神楽が演じられる事は、とても感慨深いものがあります。

宝亭支店



を抑えつつ注文した。

しく食した
六三三



兄弟で守っている事にも心揺さぶられたが、この山と共に刻んだお二人の歴史にも感銘を受けた。

御嶽山駅に着いて最初の売店亭支店は永きに渡り参拝者、登山者を見てきた歴史ある売店である。